

7月26日 北村誠吾地方創生担当相が遠野に

地方創生の取り組みを視察

本県を訪れた北村地方創生担当相は、遠野醸造TAPROOM(中央通り)を視察。ビールの里プロジェクト関係者からホップとビールを活用した市民と団体、行政が連携したまちづくりの取り組みを聞き、意見を交わしました。同日は、市役所本庁舎や遠野風の丘も訪問し、本田市長から要望書が手渡されました。



遠野醸造で説明を聞く北村地方創生相(左中央)

8月5日 千葉家の木でコースターづくり

重要文化財千葉家に親しもう！

重文千葉家の活用を考える会は、千葉家に関心を持ってもらうために同家裏山の木を使ったコースターづくりを初開催。旧綾織小学校体育館外で行われ、綾織小1～6年生14人が参加しました。子どもたちは千葉家に自生する木について学んだ後、思い思いの木を選びコースターを作成し、千葉家に親しみました。



千葉家屋号の焼き印を押して完成！

8月7～9日 INNOVATION SUMMER COLLEGE 2020

高校生らが地域課題探究

地域課題を発見し解決策を考えるプログラムが遠野みらい創りカレッジで開講。中央大・法政大学生が考えたプランをもとに、本市と花巻の高校生が留学生と共に知恵を絞りました。オンライン参加を含めて72人が話し合いやフィールドワークを通して地域資源の活用などを探究し、最終日に成果を発表しました。



さまざまな視点から意見を交換

7月24日 TONO MUSIC FESTA 2020

心を一つにして演奏

遠野高校吹奏楽部と音楽部の定期演奏会を兼ねる同フェスタは遠野市民センター大ホールで開催。同校邦楽部や遠野緑峰高校吹奏楽部、花巻北高校合唱部、花巻市の市民バンドFerio Brassが共演し、息の合った演奏を披露しました。訪れた市民ら220人は、工夫を凝らした発表に大きな拍手を送りました。



会場を盛り上げる演奏者の皆さん

8月1日 遠野市少年少女発明クラブが発足

ものづくりの楽しさを体感

県内8つ目となる同クラブは、小中学生にものづくりや発明の面白さを体感してもらうために発足。開成式では、佐々木弘志クラブ会長が第1期生のクラブ員を激励しました。本年度は4人のクラブ員が木工作品やラジオ製作などに挑戦。作品の一部は、10月に行われる岩手県発明くふう展に出品予定です。



金づちで慎重に釘を打ち込みます

8月5日 遠野市地域見守り活動に関する協力協定

安心安全を守るネットワーク拡充

市と第一生命保険株式会社盛岡支社が同協力協定を締結しました。協定は、市内の一人暮らし高齢者や生活困窮者などの見守り体制を構築し、地域福祉の向上を図るため平成25年度から展開。現在は、電気やガス、配達など市内23事業所・団体が市と協定を結び、日頃の業務を通じて市民の安心安全を支えています。



協定を結んだ内田好和副支社長(右)と本田市長

第38回岩手日報杯三陸海岸学童軟式野球大会兼
第26回マクドナルドカップ岩手県学童軟式野球大会

チーム一丸！ 掴んだ初優勝

小友ベアーズ野球スポーツ少年団



小友ベアーズ(小友、達曽部、宮守小2～6年、15人)は、7月18日～8月1日まで釜石市で開かれた同学童軟式野球大会に本市代表として出場。平内ベアーズ野球スポーツ少年団(九戸郡・洋野町)との決勝戦を8対2で制し、初優勝を飾りました。市内の野球スポ少が同大会で優勝するのは、昭和60年度の松崎スポーツ少年団以来35年ぶり2度目です。

大会には県内の予選を勝ち抜いた25チームが出場。トーナメント戦で頂点を目指しました。小友ベアーズは、全力で「声を出す・ボールを見る・走る」をモットーに練習の成果

を堂々発揮。3人の投手陣が相手打線を封じ、切れ目のない打線で得点を重ねて全5試合を勝ち抜きました。大会MVPに輝いた主将の大久保祐汰さん(小友小6年)は「みんな野球が大好きなことがチームの一番の強み。監督やコーチ、親に支えてもらい、チーム一丸で優勝を勝ち取れて嬉しい」と笑顔が弾けました。

なお、投打で活躍を見せた主将・大久保さんは大会MVP。決勝戦で6打数5安打3打点の固め打ち、チームをけん引した藤川哲さん(同6年)が打撃賞に選出されています。

第55回岩手県猟友会安全狩猟射撃大会

射撃技術、県ナンバー1

多田 友和さん(宮守町鱒沢)



クレー(右)は直径約10センチ。反射神経とバランス感覚が大切と説く多田さん

同射撃大会は8月2日、矢巾町の矢巾総合射撃場で開かれ、個人の部Aクラス(55歳以下)に出場した多田さん(遠野猟友会所属)が優勝を果たしました。大会は、安全な狩猟活動に向けた鉄砲の取扱い技術向上と事故防止を図るもの。上下左右、複雑に飛び交うクレー(的)を打ち抜いた枚数を競いました。国体の本県代表でもある多田さんは、70点満点中64点を記録。2位の選手と1点差の接戦を制し、高い射撃技術と勝負強さを発揮しました。

多田さんは、「厳しい練習で自分を追い込み、技術を磨いてきた。国体3位入賞を目標に、さらに上のレベルを目指したい」と意欲を新たにしました。